

テーマ：貿易統計（2017年12月）
 ～実質輸出は引き続き増加基調～

発表日：2018年1月24日（水）

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 エコノミスト 齋藤 麻菜
 TEL：03-5221-4573

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量					
		原数値		輸出金額		輸入金額		前年比	アメリカ	EU	アジア	前年比	アメリカ	EU	アジア
				前年比	前年比	前年比	前年比		前年比	前年比	前年比		前年比		
17年	1月	▲ 10,919	1,569	1.3	8.4	▲ 0.3	▲ 5.1	▲ 2.7	4.2	6.3	15.9	4.0	9.7		
	2月	8,111	6,379	11.3	1.3	8.3	2.2	4.9	16.0	▲ 4.3	2.6	1.5	▲ 8.2		
	3月	6,103	1,826	12.0	15.9	6.6	4.5	▲ 0.0	7.6	4.2	14.3	4.5	6.0		
	4月	4,792	1,374	7.5	15.2	4.2	2.8	2.7	6.8	4.9	7.7	3.0	5.7		
	5月	▲ 2,064	1,818	14.9	17.9	7.5	8.0	16.7	6.6	5.4	5.5	3.0	8.7		
	6月	4,414	858	9.7	15.5	4.0	5.2	4.6	3.6	4.2	13.6	7.8	3.4		
	7月	4,220	3,024	13.4	16.3	2.6	3.0	▲ 1.0	1.9	3.2	5.5	4.6	6.6		
	8月	1,095	3,285	18.1	15.3	10.4	18.1	2.9	9.4	2.4	1.1	3.6	3.5		
	9月	6,640	2,210	14.1	12.1	4.8	6.2	▲ 1.8	8.9	▲ 0.2	14.0	4.5	▲ 1.0		
	10月	2,807	3,145	14.0	19.0	3.8	1.6	0.6	7.8	3.2	0.0	11.0	4.7		
	11月	1,122	2,896	16.2	17.2	5.5	4.8	▲ 1.8	9.1	2.6	14.2	▲ 1.8	6.6		
	12月	3,590	868	9.3	14.9	4.5	2.8	1.6	2.6	5.9	6.0	3.3	9.6		

(出所)財務省「貿易統計」

○輸入の高い伸びが収支を押し下げる

12月の貿易統計が財務省より発表され、貿易収支は3,590億円の黒字（コンセンサス：+5,200億円、レンジ：+3,202～+6,618億円）と、コンセンサスを下回る結果となった。

輸出金額は、前年比+9.3%（コンセンサス：+9.9%、レンジ：+6.6%～+12.0%）と増加した。数量・価格の両面が増加に寄与しているが、為替が前年比で円高になったことから価格面の伸びが小幅に留まり、金額の上昇が抑えられた。輸入金額は、同+14.9%（コンセンサス：+12.4%、レンジ：+7.0%～+16.0%）と高い伸びでの推移が続いた。輸入金額についても、価格面の伸びは鈍化した数量面が堅調な増加を続けたため、金額は高い伸びを維持している。

季節調整値では、輸出金額が前月比+1.3%、輸入金額が同+4.4%となった。輸入の増加が輸出の増加分を上回ったことで、貿易収支は868億円の黒字と前月から水準を切り下げる結果となっている。

○実質輸出は前月比▲0.7%

為替などの価格変動の影響を除いた実質輸出は、前月比▲0.7%（11月：同+2.9%、実質化・季節調整は第一生命経済研究所試算）と3か月ぶりの減少となった。ただし、前月の伸びが高かった影響もあり、均してみれば実質輸出は増加基調を辿っている。

実質輸出を国別にみると、アジア向け、米国向けが減少したことが全体を押し下げている。アジア向けについては、一般機械や電気機器といった機械関連輸出がマイナスとなったことが減少の要因となっている。アジア向けはこのところ、電子部品や半導体製造装置などのIT関連の需要増を背景に高い伸びでの推移が続いてきた。中でも11月については電気機器が同+9.4%、一般機械が同+7.5%と急増しており、12月についてはその反動が出た形だ。前月レポートで想定した通り、新型スマホ発売による押し上げが剥落したこと

によって水準調整されたとみられる。もっとも、半導体関連輸出、アジア向け輸出については、世界経済の好調さや電子部品需要の強さを鑑みれば、水準調整後は増加基調を辿ることが見込まれる。米国向けについては、機械関連輸出の減少が目立ち、特に輸送用機器の押し下げ寄与が大きかった。12月の米国自動車販売が好調さを保っていることから、米国向け自動車輸出に関しても復調が期待でき、懸念は不要だろう。EU向けについても、乗用車輸出の弱さはみられるが、全体として概ね好調な水準を保っており、横ばい圏での推移と評価できる。

○先行きも輸出は増加基調を維持する見込み

以上のように、12月の実質輸出は、アジア向け輸出や米国向け輸出に押し下げられ、前月比マイナスでの推移となった。もっとも、前月までの伸びが高かったこともあり、均してみれば輸出は増加基調を維持していると考えられる。

先行きについて海外経済をみると、米国経済は良好な雇用環境や減税政策の下で、個人消費が今後も景気を押し上げるとみられる。欧州経済についても今後も内需主導での安定した景気拡大を続けるだろう。中国経済も足元では依然として拡大を続けており、アジア経済は、海外経済の拡大を受けて底堅い推移を続けると思われる。輸出は、こうした世界経済の好調さを受けて、今後も増加基調を続けることが想定される。

